

11月14日分科会勉強会（午後1時～）

## テーマ

- 国民にメッセージを効果的に届けるための分析体制構築・コミュニケーション戦略

### 1. 「第6波に向けて」を書いた目的

- 現在の分科会の分析体制の弱点の指摘と改善の提案。これまでとこれからの分科会の分析体制とコミュニケーション戦略を考えるための材料

### 2. 8月12日の5割削減提案

- 目標未達成。国民・政府にメッセージが届いていない

### 3. 改善点

- 「モニタリング能力」はおそらく悪くない。医療データの信頼性の回復は重要だが
- 「見通し」、「対策効果の分析」は改善の余地大きい
  - 「見通し」は国民との対話の窓口なので、特に重要。見通しと対策効果分析はコミュニケーション戦略と密接につながっている
  - きちんとした見通しなしに、国民・政府が納得する政策は提言しにくい

## 見通し

### 政府

- 内閣府 AI シミュレーションチーム。7チーム。多大な予算・人員。
- 実践的。中長期。現実世界で重要な要素が盛り込まれている
- 見通し作成にコミット。毎週 Meeting
- 政策 Relevant なプロジェクション作成経験の蓄積
  - ワクチン配分戦略、アルファ株・デルタ株、五輪、宣言解除基準の分析、宣言解除後の見通し、第6波の見通し、3回目のブースター接種、抗体カクテル、ワクチンパスポート、ワクチン効果減退、社会経済との両立、夏の感染増加減少の分析

### AB・分科会

- 感染研チーム(3-2)・古瀬チーム(3-2)・西浦チーム(3-3)。予算・人員？
- 短期・超短期。学術的。現実世界で重要な要素の多くを排除
- 見通し作成以外にもやることが沢山ある
- 政策 Relevant なプロジェクション作成は限定的
  - 1月のAB3-3プロジェクション、6月・7月上旬のAB3-2プロジェクション、9月上旬の古瀬チームの長期プロジェクション、古瀬—感染研チームの「予測ツ

- ル]、4月-9月の変異株割合予測、実効再生産数プロジェクション
- AB・分科会に、プロジェクションを根拠に国民・政府とコミュニケーションする習慣がついていない現状に繋がっている
  - より広く、(定性的でなく) 定量的に国民・政府とコミュニケーションを取る習慣が身につけていない現状につながっている

#### 4. 第6波に向けて

- 分析体制
  - 見通し・対策効果の分析力強化
  - そのための、内閣府 AI-Sim チーム・他分野専門家との連携
- AB 資料に、AI-Sim チームのまとめを月に一回追加
  - もしくは、参画チームがローテーションで毎週 AI-Sim 専門家に資料提出
  - 一つ・二つのチームに依存しないことが重要(「非個人化」の重要性)
  - 将来の世代のために、実験的にやってみる
- コミュニケーション
  - 見通し分析の強化は直接コミュニケーション戦略の強化につながる(見通しは国民・政府との対話の窓口)
  - 見通しの非個人化
  - データ・モデル分析に関する何かしらの短期研修
    - ◇ プロジェクションの見方
    - ◇ エビデンスレベル・不確実性の伝達方法
  - 違う立場・考え方に配慮したコミュニケーション
    - ◇ 例：人流・リスク行動の重要性を伝えたいのならば、それ以外の要素が重要性かもしれない可能性に十分に言及する